

FP&Aとは

1 効果的なFP&Aの12の原則では、原則4で予算と実績（および予算と予測）の差異発生理由を、ある面から明確にすることが示されている。ある面とは、次のうちどれか。

- a) タスク・コントロールの面
- b) サプライチェーンの面
- c) 価格の面
- d) ビジネスの面

2 効果的なFP&Aの12の原則では、原則7で責任会計の徹底を図ると共に結びつけるべき要素が挙げられている。その要素は、次のうちどれか。

- a) 金銭的報酬
- b) 業務上の目標
- c) 非金銭的報酬
- d) 経営者との連携

1 プロフェッション 1.1 FP&Aの役割 正解：d

効果的なFP&Aの12の原則の原則4では、差異発生理由を迅速にビジネスの面から明確にすることが示されているが、これは単純に差異が有利ないし不利で金額が幾らかを計算するだけでは全く足りないことを意味している。差異は有利にしても不利にしても、さらには差異が発生していなくても計画と実績との間でビジネス面からの検証が不可欠である。会計数値はあくまでビジネス活動の写像であり、ビジネスそれ自体が計画や戦略に照らしてどういう状態かを把握することが本質である。

したがって、正解は(d)となる。

1 プロフェッション 1.1 FP&Aの役割 正解：a

効果的なFP&Aの12の原則の原則7では、責任会計の徹底を図ると共に金銭的報酬と結びつけることが示されている。責任会計はマネジメント・コントロール・システムの根幹となる構造である。組織の全体最適を実現するために準備されるのが責任会計であり、組織の各部署が適切に責任を果たすことが求められる。そして、各責任の達成が金銭的な報酬と結びつけられることで動機づけを行うことができる。責任会計と金銭的報酬の適切な結びつけは、マネジメント・コントロール・システムを機能させる重要な論点である。

したがって、正解は(a)となる。